



二〇二〇年

中国古典文化講座

新時代の中国古典文学


纏足を描いた小説

講師

加部 勇一郎 氏

立命館大学食マネジメント学部准教授

場所

立命館孔子学院講義室
(国際平和ミュージアム二階)

12/19(土)
10:00~11:30

講座概要

纏足(てんそく)は、女の足を子どもの頃からきつく縛り、小さいままに発育を止める風習です。昔の中国では、足の小さいことが美女の条件とされたのでした。纏足の風習は、宋代にはあったと言われ、地域や民族によって差はあるものの、基本的には20世紀まで続きます。纏足愛好の傾向がとくに強まるのは清代で、この頃には、人々は身分を問わず足を縛るようになります。そしてその現実を、小説という虚構の中にも、形を変えて映し出されます。

講座ではまず、中国の纏足文化について、最近の研究を参照しながら概観し、纏足を描いた小説(『金瓶梅』や『鏡花縁』など)から、具体的な場面を鑑賞します。そしてとくに『鏡花縁』の「男の纏足」の場面に着目し、それが20世紀の視覚文化の中で、どのような発展を遂げてゆくかについて解説します。

参加無料(事前申込制)

※お申し込みはホームページ「文化イベント講座申込フォーム」からお申込みください。

連絡先: 立命館孔子学院(立命館大学 国際平和ミュージアム2階)
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 アカデミア立命21内
TEL: 075-465-8426 FAX: 075-465-8429 MAIL: koza@st.ritsumeikan.ac.jp
HP: <http://www.ritsumeikan.ac.jp/confucius/>

詳細・お申込みは
こちらから

